

## 玄海原子力発電所

3月16日(金)、佐賀県神埼市の会社で、製品の立会試験に行く用事が出来た。せっかく珍しいところへ行くんだから、翌日土曜日はどこかへ寄ってこよう、と考えた。

金曜日は、朝羽田を立ち、福岡空港で高速バスに乗り「高速神崎」というバス停で降りる。1時半から6時まで仕事をし、「高速神崎」から30分ほどバスに乗って「佐賀駅バスセンター」へ。その晩、19:45佐賀発西唐津行き2両編成ディーゼルワンマン列車で唐津へ着いたのが21:30頃。その晩唐津市内で一泊。ホテルは幅1kmもあろうかという松浦川の河口を見下ろし、その向こうに延々5km続く虹ノ松原を見晴らす風光明媚なところがあった。

翌朝6:50にホテルを出て、30分ほど河口沿いの道を海に向かって歩き、市の中心部のバスセンターへ向かった。岬の先端の小山の上にお城がある美しい町であった。唐津市は半島の東岸の奥まった湾に面しているが玄海原発はその半島の西海岸の湾に面している。そこへ行くバスは3時間に一本しかない。7:36にバスセンターで玄海エネルギーパークへ行くバスに乗る。乗客はわたし一人。途中でひとりの婦人が乗ってきたと思ったら、停留所2つほど過ぎてすぐ降りて行った。結局山越えの小一時間の旅は、わたしひとりの貸し切りバスであった。原発に至る山道は、小さな集落がポツンポツンとあるだけであったが、原発に近くなると、電力会社社員の独身寮と、定期点検時に労働者が集まる民宿のような安普請の建物が5-6軒あった。もちろん今はがらんとして人気がない。

玄海エネルギーパークと名付けられた展示館は、敷地も広く、建物も4階建てで、大きさでは浜岡に負けなかった。周辺には、お年寄りがグラウンドゴルフを楽しむ広場があり、子供用の遊園地もあって、実際この日は年配者が50人ほど、子供連れの若い夫婦が20組くらい来ていた。展示館は9時オープンなので30分ほど周りをうろうろ散歩した。原発の余熱を利用した大規模な温室があるが、原発が止まった今、どうして熱を供給しているのだろうか？

9時開館と同時に、若い家族連れが行列を作って入って行った。中ではきれいなお姉さんが4-5人鉢植えや子供向けのプレゼントを渡している。館内にも子どもたちが遊ぶ広い部屋がある。行列の終わりの方から入って行ったが、異質のなりをしているのはわたし一人なので、すぐ目を付けられた。

「どういふところをご覧になりたいですか？」

「原子炉の模型を見にきました」

「ではこちらからどうぞ。あそこに実物大模型があります」

建物の中心が実物大模型でありその周辺にさまざまな展示があった。わたしにとって加圧水型(PWR)の模型を見る初めての機会であった。30分ごとにスクリーンで10分間ほど

の映像説明があったが、9：30の上映時刻に椅子に座ってそれを見ているのはわたしひとりであった。

4階の展望室からは目の下に4基の原発が見下ろせた。それよりも目を引いたのは周囲の風光明美な山と複雑な海岸線に交差する島影であった。すぐ北の波戸崎の丘の上には、文禄慶長の役の出撃拠点として築かれた肥前名護屋城の城跡がある。多数の島影は、手前は佐賀県、向うは長崎県である。この海岸は有史以前から、代代渡来人が上陸してきた先進地域であったし、防人が勤務した前線基地でもあったろうに。

帰りは、10：48発のバスに乗った。しばらく山道を走ると浜の浦の棚田という名所を通る。代々大切に積み上げられたと思われる美しい石垣の棚田が今も耕作されている。それから海岸沿いの漁村へ下りた。仮屋という大きな漁村を通り、その次に玄海町の中心部を通った。役場とデイケアセンターは大きめの建物であった。その後、峠を越えて唐津の町へ帰ってきた。

唐津駅12：10発福岡空港13：40着の、海岸沿いに東へ向かう普通列車に乗った。昨晚佐賀からの列車は2両のワンマンであったが、この列車は6両編成であった。

2012年3月 筒井哲郎